



SIAF
SAPPORO INTERNATIONAL ART FESTIVAL
2014

札幌国際芸術祭2014 全体概要

2013年11月22日現在

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会

<http://www.sapporo-internationalartfestival.jp/>

ごあいさつ

世界的な経済危機、震災、原発事故を体験した私たちは、自らの生活を見つめ直し、文明的な変革をもたらす大きな転機を認識しています。こうした中、全国の中で魅力ある都市と評される札幌の街を誇りに思い、さらに磨きをかけて、次世代へ引き継いでいかなければなりません。

札幌市は、2006年に「創造都市さっぽろ宣言」を行い、市民一人ひとりが創造力を発揮することで、生活、文化、産業など様々な分野で創造的活動が展開されていく、そしてその魅力を力強く世界に発信していく取り組みを進めています。

「札幌国際芸術祭2014」は、この「創造都市さっぽろ」の象徴的な事業として開催をいたします。

ゲストディレクター坂本龍一氏による「札幌国際芸術祭2014」の開催テーマは「都市と自然」。

歴史文化・風土、都市機能、地域経済や産業、暮らし方をアートの視点で見つめ直すことで都市と自然との共生のあり方を問い、私たち市民自らが未来を展望する機会を創出する、従来の展覧会の枠組みを超えた新しい形の芸術祭を目指しています。

また、札幌市は、ユネスコ創造都市ネットワークのメディア・アーツ分野での加盟を申請し、2013年11月にアジア初の「メディア・アーツ」都市として認定されました。

「札幌国際芸術祭2014」の開催とこのユネスコ創造都市ネットワーク加盟を契機に、市民一人ひとりの創造性を核とした地域の文化力向上、メディア芸術の振興、創造都市の推進を共振させ、長期的な展望のもと、国際的な文化芸術都市としての歩みを進めていきたいと考えております。

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会長

札幌市長 **上田文雄**

目次



01	ごあいさつ
----	-------

03	「札幌国際芸術祭」とは
	・目的
	・基本方針
	・展開方針

04	「札幌国際芸術祭2014」について
	・特徴
	・開催概要

06	事業概要
	・主催事業
	エキシビション
	パフォーマンス/ライブ
	プロジェクト
	・連携事業
	札幌国際芸術祭2014全体としての取り組み

20	主な会場
----	------

24	MAP
----	-----

25	企画体制
----	------

26	実行委員会
----	-------

「札幌国際芸術祭」とは



《目的》

文化芸術がより一層市民に親しまれ、心豊かな暮らしを支えるとともに、札幌の様々な資源を活かした次代の新たなライフスタイルやクリエイティブ産業が生まれ、その魅力を世界へ力強く発信していくために、「創造都市さっぽろ」の象徴的な事業として「国際芸術祭」を開催する。

創造都市さっぽろとは

文化芸術の多様な表現に代表される創造性を活かし、産業振興や地域の活性化などのまちづくりを進めている都市は「創造都市(Creative City)」と呼ばれており、近年の都市戦略モデルとして注目されています。

札幌市には、創造性を培う基盤となり、世界的にも評価の高い文化芸術に関する施設やイベントが多数あります。

文化芸術は、人々に感動を与え、その感動は人々を刺激し、新たな行動を起こすきっかけを作ります。また、その行動は、新たなコト、モノを生み出す創造的活動へとつながり、新たな商品、産業を生み出す原動力となると考えます。

こうした札幌市の創造性を生み出す基盤を活用すると共に、創造都市の取り組みで魅力再生に成功した国内外の創造都市の事例を参考にしながら、札幌市としても創造都市を都市戦略として位置付け、積極的に取り組んでいくべきと考えます。

《基本方針》

札幌が有する「都市」の魅力と「自然」の豊かさ、この2つの魅力が札幌の資源であることから、「都市と自然」を基本方針とする。

《展開方針》

多くの市民や観光客が親しみを持ち、定期的かつ継続的な芸術祭となることを目指すため、5つの展開方針を設定する。

【1】多様な文化芸術分野と複合した世界最先端の現代アート展の実施

現代アートを中心にしながら、音楽やパフォーマンス・アーツなど多様な文化芸術分野と複合した展覧会などを文化芸術関連施設や街中の様々なパブリックスペース、自然環境を活用して実施。

【2】既存の文化事業との連携

様々な既存文化事業と連携し、芸術祭の広がりを創る。

【3】札幌の魅力を体験する観光イベントとの連携

芸術祭の開催期間中に実施される観光イベントと連携し、市民や観光客が札幌の魅力を体験できるようにする。

【4】民間ギャラリーやアート関連団体との連携による企画展

民間ギャラリーなどによる企画展やアートフェアと連携し、より広がりのある芸術祭を目指す。

【5】メディア・アーツの展開

札幌が有するクリエイティブ産業の集積やクリエイターの育成施設などの豊富な資源を活かし、メディア技術と芸術の多彩な表現領域であるメディア・アーツの新たな試みを探る。

「札幌国際芸術祭2014」について

《特徴》

- 1 現代アートの展覧会の枠組みを超えた、複合的な地域体験型アート・イベントであること。
- 2 トリエンナーレ(3年ごとの開催)を指揮する総合芸術監督として、国際的な芸術家などを招聘するゲストディレクター制を導入したこと。
- 3 地域がホストとなって、ゲストディレクターが熟慮した開催テーマに従い、共に国際芸術祭を作り上げていくという組織編成。

札幌の自然や町並み、商店街や公園、歴史的建築、地下歩行空間までが舞台となるこの芸術祭の多彩なプロジェクトの実現においては、坂本氏の国際的な企画構想力が反映され、細部に至るまで監修いただいています。

美術館でのアート体験だけでなく、市民・訪問客が、芸術祭の様々な舞台へと出かけ、札幌の風土、歴史・文化、食、地域の人々との交流を体験しながら、地域の各エリアに展示される視覚、音楽、メディア・アート、パフォーマンス・アーツなどを含む多様なプログラムを、自らが主体的に参加し、楽しみ、考える。それは、開催テーマである「都市と自然」に込められた物語を、参加者が身近に体験する創造と交流の場となるでしょう。

2014年夏、札幌国際芸術祭は、札幌に根づく既存の文化芸術事業や地場産業界との連携を促進し、観光・交通・宿泊・飲食・物販・メディア・ICT・美術館・コンサートホール・高等教育機関・行政サービス・NPO・市民団体などと共に、都市芸術祭の新たな展開を目指しています。当然、地域には多大な経済効果が期待されています。

文化芸術の創造性は、まちづくりからクリエイティブ産業の振興に至るまで、広く社会に浸透していきます。現代アートの表現を手がかりに、都市と自然、地域、経済、日々の生活をめぐる課題と向かい合うことで、札幌は招来する都市課題の解決策や文化経済力の基盤を、今後、持続的に創出していくと確信しています。

《開催概要》

名称	札幌国際芸術祭2014／Sapporo International Art Festival 2014(SIAF2014) <small>サイアフ</small>
テーマ サブテーマ	《テーマ》「都市と自然」 《サブテーマ》「自然」「都市」「経済・地域・ライフ」
ゲストディレクター	坂本 龍一／Ryuichi Sakamoto
開催期間	2014年7月19日(土)～9月28日(日)(72日間)
主な会場	・北海道立近代美術館 ・札幌芸術の森美術館 ・札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ) ・札幌大通地下ギャラリー500m美術館 ・モエレ沼公園 ・札幌市資料館 ・北海道庁赤れんが庁舎 ほか
主催／協力	主催：創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 協力：山口情報芸術センター[YCAM]
事業数と 会場数について	事業数：主催事業18事業 (エキシビション…4事業、パフォーマンス／ライブ…3事業、プロジェクト…11事業) 会場数：主な会場…7会場、パフォーマンス／ライブ会場…2会場 ※上記の事業数・会場数は2013年11月22日現在のものとなります。 今後変更となることがありますので、予めご了承ください。

事業概要 | 主催事業

エキシビション(ミュージアム及び特別展示会場)

企画展示:札幌国際芸術祭2014「都市と自然」

日程: 2014年7月19日(土)~9月28日(日)

会場: 北海道立近代美術館、札幌芸術の森美術館

担当: 飯田 志保子(アソシエイト・キュレーター)

札幌国際芸術祭2014の中核となるこの現代アート展では、国内外のアーティストの作品によって北海道と日本の近代化の歩みと自然環境を振り返りながら、これからの札幌と北海道の自然、都市のあり方、エネルギー、暮らしを見つめ直します。

主会場となる二つの美術館では、それぞれの特徴と立地条件を活かした展示を行います。北海道立近代美術館の常設展示室1階では、北海道の炭鉱史から原子力まで、エネルギーの転換期とそれを取り巻く環境や社会背景に関連した作品を展示予定です。私たちの今の暮らしを支える近代化の過程を改めて考える機会となるでしょう。また、2階は北海道の自然環境を表象する「雪」をテーマにした作品によって、もうひとつの会場、札幌芸術の森美術館へとテーマの橋渡しをします。札幌芸術の森美術館では、美しい自然環境を体感し、地上から宇宙へと広がる大きなまなざしを様々な角度から楽しめるような作品を展示します。

こうした構成によって本展では、現代アートによる「沈黙考のための空間」を創出しながら、「都市と自然」のテーマを体現します。



北海道立近代美術館



札幌芸術の森美術館

アーティスト 関連イベント

SIAF2014 招待作品「あなたの都市の上に草は生える」

原題: **Over Your Cities Grass Will Grow**

会場: 北海道立近代美術館及び市内各所

本作はアンゼルム・キーファーの作品を通じて、世代を代表するドイツ人アーティストの創造の過程に入り込みます。1993年、キーファーは母国ドイツを離れ、南仏ラングドック地方のバルジャック村に移り住みます。彼は遺棄された35ヘクタールに及ぶ絹工場跡地の上にアトリエ「La Ribotte(ラ・リボット)」を建てました。カメラは、キーファーの創造を支える“集積空間”の中に入り、巨大なトンネルの迷宮や地下空間、池や洞窟、そして森へ分け入り、城塞のように積み重なったコンクリートの塔が点在する広大な風景に到達します。監督ソフィー・ファインズはシネマスコープで撮影し、緩やかな視点と観察眼的な探索を交差させます。これによりキーファーのドラマティックな芸術性と、創造プロセスの親密さが同時に実感できる「参加型ドキュメンタリー」となっています。時間と空間の両極性が本作を生き生きとさせ、何層にも重なった語り口を生み出します。ここでは創造と破壊は相互に依存しています。本作はキーファーが絵画や彫刻に使う鉛、コンクリート、灰、酸、土、ガラスや金などの素材にも直接触れていきます。

2010年カンヌ映画祭特別招待作品 日本初公開作品

監督・脚本・撮影: ソフィー・ファインズ 制作国: イギリス、フランス、オランダ 制作年: 2010年 上映時間: 105分

アンゼルム・キーファー (Anselm Kiefer)

1945年、旧西ドイツ、ドナウエッシング生まれ。大学で法律を学ぶがのち美術に転じ、現デュッセルドルフ芸術アカデミーで絵画を学び、ヨーゼフ・ボイスらに師事した。69年、ヨーロッパ各地でナチスの敬礼のポーズを取る自身を撮影した一連の写真「占領」を発表、激しい論争を巻き起こす。キーファーの作品は、古代の神話からナチス・ドイツのいまわしい時代までを含めたドイツの歴史をテーマとし、第二次大戦後のドイツが忘れようとしていた暗い過去をも白日の下にさらそうとするものだった。ドイツの負の歴史を敢えて呼び覚まし、現代人の心を揺さぶった。一方で北歐神話、ギリシャ神話あるいは旧約聖書から題名を採ること、作品を神話の世界へ導く。キーファーの用いる多様な材料による物質感と深遠なテーマ、その巧みな結合が強い刺激を与える。キーファーの作品は、人間の本质、根源的なものについて、考えることを現代人に迫る。92年、ドイツから南仏ラングドック地方にアトリエを移した。1999年、高松宮殿下記念世界文化賞・絵画部門受賞

<フィルモグラフィ>

・The Pervert's Guide to Ideology (documentary) 2012 ※The Pervert's Guide to Cinemaの続編 ・スラヴォイ・ジジェクによる倒錯的映画ガイド(documentary) 2010
・Tanz und Ekstase: Alain Platel's VSPRS (2007) (TV) ※アラン・プラテルのドキュメンタリー ・The Pervert's Guide to Cinema (film essay) 2006・Hoover Street Revival (feature documentary) 2003 ・Because I Sing (documentary) 2001 ・マイケル・クラーク/The Late Michael Clark(2000) ・Lars from 1-10 (1998) ※ラース・フォントリアーのドキュメンタリー

監督:ソフィー・ファインズ(Sophie Finnes)

1967年イギリス、サフォーク生まれ。『数に溺れて』、『コックと泥棒、その妻と愛人』と言った作品でピーター・グリーナウェイに助監督として師事し、以後パレエ界の異端児マイケル・クラーク、アラン・プラテルを題材としたドキュメンタリーを発表、世界的に高い評価を得ている。俳優のレイフ・ファインズ、ジョセフ・ファインズの妹にあたる。独創的な思想家であり、ラカン派精神分析家として知られるスラヴォイ・ジジェクと共に、彼が40本以上の歴史的な名作映画の映像を引用し、まったく新しい映画の見方を提示するドキュメンタリー『倒錯者のためのイデオロギー・ガイド』を監督し、これは日本公開された。ソフィーは、2009年、ロッテルタムのシネマートで、フランス映画賞を受賞。本作は、2010年カンヌ映画祭特別招待作品。SIAF2014オープニングに来日予定。



アンゼルム・キーファーとソフィー・ファインズ
撮影: Anton Corbijn

企画展示: センシング・ストリームズ (Sensing Streams)

日 程 : 2014年7月19日(土)～9月28日(日)

会 場 : 札幌駅前通地下歩行空間及び周辺地区

担 当 : 四方 幸子(アソシエイト・キュレーター(メディア・アート))

札幌駅と直結した「チ・カ・ホ」は、地下鉄大通駅に通じる展示機能を備えた約520mにわたる地下の歩行空間です。芸術祭への来場者を最初に歓迎する場としてインフォメーションセンターを設けるとともに、各所において、「センシング・ストリームズ」をテーマに、メディアアート・プロジェクト、映像上映や写真の展示、トーク、ライブなど多彩な催しを会期を通じて展開します。

「センシング・ストリームズ」は、社会や都市環境に浸透し、人々をつなぎはじめた新たな層としての情報技術に注目、複数のアーティストが自然や都市における様々な情報の流れ(ストリームズ)を感知(センシング)し、動的に可視化・可聴化していくプロジェクトです。地下空間にしながらも、札幌の水脈をはじめとする自然の動きや人々のふるまい、電磁波の変化などにアートを通して触れることで、豊かな自然をたたえた大都市・札幌をダイナミックな情報の結節点として、訪れた方々をはじめ市民にも発見していただくきっかけとなるでしょう。



札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ) (撮影:酒井広司)



(参考画像)

市民参加型 プログラム

札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)では、
「Sensing Streams」に加え、
会期中様々な市民参加型プログラムを開催いたします。

●市民写真公募プログラム

札幌市民からテーマを設定して写真を募集します。選考された作品を北2条広場CGMデジタルサイネージ「sapporo*north2」を用いて発表します。写真の募集方法については簡易に市民に参加していただけるよう、メールによる投稿システムを採用する予定です。

●ライブ

札幌国際芸術祭2014の開催期間中の各週末、北3条広場にて演奏、ライブを行います。同会場では「Sensing Streams」内のイベントが開催される週末もあり、併せて札幌駅前通地下歩行空間を盛り上げていきます。

●学生などによるインスタレーション

北4条広場にて札幌国際芸術祭2014のテーマに沿った展示を市内の学生などが行います。一定期間ごとに展示を変えることで、通勤通学に「チ・カ・ホ」を利用している市民に対しても新鮮な楽しみを継続的に提供します。

など

赤れんが特別展示「伊福部昭・掛川源一郎」展

日 程：2014年7月19日(土)～9月28日(日)
会 場：北海道庁赤れんが庁舎
担 当：飯田 志保子(アソシエイト・キュレーター)
協 力：小室 治夫(掛川源一郎写真委員会 代表)
会場デザイン：オリバー・フランツ(デザイナー)



「赤れんが」の愛称で北海道民や観光客に親しまれている北海道庁旧本庁舎。北海道の重要な歴史的・文化的建築物のひとつです。このたびの芸術祭で展開される多様な事業のうち、各プロジェクトに共通するのは、日本の近代化の象徴として北海道をとらえ、その様々な歴史を記憶すること。そのなかで「赤れんが」では、北海道に縁の深い二人の重要な先人の文化的功績に再び光を当てる展覧会を開催します。

ひとりには室蘭市に生まれた写真家の掛川源一郎(1913-2007)。アイヌ民族の暮らし、風俗、自然との関わり、そして北海道の近代風景を捉えた写真によって、芸術祭のテーマ「都市と自然」の背景にある近代と現代を結びます。

もうひとりには釧路市が輩出した作曲家で、ゴジラの映画音楽で知られる伊福部昭(1914-2006)。伊福部は、子どものころにアイヌの人々と接するなかで、彼らの生活・文化に共感し、それが以後の楽曲に大きな影響を与えています。そのアイヌ民族との深い関わりは、掛川源一郎の写真とも共鳴します。

美術館で開催される現代アート展の背景に横たわる北海道の近代史を、赤れんがの展覧会ではまた違った角度から映し出します。

公認展示：札幌国際芸術祭2014「都市と自然」 北海道、札幌ゆかりのアーティストによる展示

日 程：2014年7月19日(土)～9月28日(日)
会 場：札幌大通地下ギャラリー500m美術館
担 当：端 聡(地域ディレクター)



撮影：YOSHISATO KOMAKI

札幌は1972年の冬期オリンピック開催を機に地下鉄開通、地下道整備など急速な都市インフラの整備が進みました。年間積雪量5m以上ある厳寒の地、札幌の自然環境のなかで快適な都市生活を過ごすために、札幌の都心にはこの時代から歩行者専用地下ネットワークが形成されています。

開通から約35年間の時を経て老朽化したこの無機質な空間を、創造的な空間として再生し、人の往来を促し創成川を挟む東西の街の架け橋とするため、2011年に札幌大通地下ギャラリー500m美術館は開設されました。

「都市と自然」をテーマに、500m美術館が誕生した札幌の地域特性と歴史が醸し出す場の持つ力を最大限に引き出す作品制作を期待して、この地に生まれ育った北海道在住アーティスト並びに北海道、札幌ゆかりのアーティストに臨んでいただきます。

パフォーマンス／ライブ

高谷 史郎「CHROMA」

日 程：2014年7月26日(土)、7月27日(日)

会 場：札幌市教育文化会館 大ホール

80年代からアーティストグループ「ダムタイプ」の活動に参加、並行して90年代後半からは個人での作品制作も開始し、国内外で幅広い活動を続けて来た高谷史郎の演出による最新作パフォーマンス。デレク・ジャーマンの映画音楽でも知られる音楽家サイモン・フィッシャー・ターナーをはじめ、ダンサー、ミュージシャン、プログラマー、映像クリエイターなど、様々なアーティストが参加する国際プロジェクトです。

2012年に滋賀県のびわ湖ホールで初演、2013年にはフランスのマルセイユ・フェスティバルで上演し好評を得ました。「CHROMA(クロマ)」とは「色彩」のことであり、アリストテレス、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ヴィトゲンシュタインなどの色彩にまつわる言説を引用しつつ、デレク・ジャーマンがエイズによって視力を失いながらも死の直前に書いた自伝的遺作「CHROMA」を原点としています。道内初公演。



撮影：福永一夫

Sidi Larbi Cherkaoui + Damien Jalet 「BABEL (words)」

日 程：2014年8月22日(金)

会 場：さっぽろ芸術文化の館 ニトリ文化ホール 大ホール

ベルギーを拠点に世界的な活躍を続けるシディ・ラルビ・シェルカウイとダミアン・ジャレによるコンテンポラリー・ダンスの珠玉作。「バベル」とは創世記のバベルの塔の物語に由来。民族、テリトリー、様々な言語、国家のアイデンティティといった問題が、鋭く、時にはユーモラスに、10以上の国々から参加する多国籍なダンサーとミュージシャンらによって描かれます。彫刻家アントニー・ゴームリーによる5つの大きな直方体フレームの舞台装置が、パフォーマーたちによって次々とフォーメーションを変え、領土、障地、自室、リングなど、自と他を分かつ見えない壁や境界となります。シェルカウイ三部作の完結編。日本初公演。



Babel(words) © Koen Broos

Alva Noto + Ryuichi Sakamoto

日 程：2014年9月27日(土)

会 場：札幌市教育文化会館 大ホール

札幌国際芸術祭2014クローリング前夜を飾る、ゲストディレクター坂本龍一とドイツのミュージシャン アルヴァ・ノトとのコラボレーション・コンサート。

プロジェクト

札幌国際芸術祭2014 サウンドプロジェクト

札幌国際芸術祭2014では、都市空間における音環境のあり方に問題意識を持ち、公共空間にふさわしい音環境を模索するため、様々なプロジェクトを展開していきます。

都市空間のサウンドコンペティション

日 程：2014年2月1日(土)～9月28日(日)

会 場：札幌国際芸術祭2014の拠点となる公共空間

札幌国際芸術祭2014のテーマを象徴し、都市の公共空間にふさわしい音の作品を世界中から広く募集します。受賞作品は、札幌国際芸術祭2014開催にあわせて市内各所の芸術祭拠点に設置され、札幌の公共空間の音として継続的に機能することを目指します。

21世紀の都市のあり方を模索する試みのひとつとして、都市の公共空間にふさわしい音のアイデアを作品として募り、都市の音環境に対する一人ひとりの意識を活性化していきます。

受賞作品の設置予定場所

- ・札幌市資料館
- ・札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)
- ・札幌芸術の森美術館

坂本 龍一 ウェルカムサウンド

日 程：2014年7月(予定)～

会 場：新千歳空港

札幌国際芸術祭2014の開催に伴い、国内外からお越しになるお客様を歓迎するため、北海道の玄関口である新千歳空港にウェルカムサウンドを設置します。札幌国際芸術祭2014のゲストディレクターである坂本龍一が自ら制作を担当、北海道の玄関口を象徴する音の作品を提案します。

歴史的建造物を再考するプロジェクト

札幌国際芸術祭2014では、アートの視点による歴史的建造物のあり方を再考し、市民の皆さまと共に札幌市資料館の未来に向けた活用の方向性を探ります。

札幌市資料館リノベーションアイデアコンペティション

日程：登録期間：2013年12月1日(日)～2014年3月31日(月)

作品募集期間：2014年3月1日(土)～4月30日(水)

会場：札幌市資料館



札幌市資料館は、1926年に札幌控訴院庁舎として建てられ、全国に8つあった控訴院のうち現存するのは札幌と名古屋だけになります。

全国でも貴重な歴史建造物として1997年5月に国の登録有形文化財(道内第1号)に選定され、札幌の中心である大通公園の西の端に位置し、周辺には札幌市教育文化会館や北海道立近代美術館などの文化的公共施設が充実しており、文化と観光の結節点になっています。

このたびのコンペティションは、ゲストディレクター坂本龍一からの提案を受けて、創造性を発揮できる場として札幌市資料館をリノベーションするためのアイデアを募るものです。コンペティションでの優秀なアイデアは札幌国際芸術祭2014の開催期間中に展示されるとともに、最優秀アイデアはゲストディレクターから札幌市長に提言されます。

SIAF2014 アクティビティ拠点プロジェクト

日程：2014年7月19日(土)～9月28日(日)

会場：札幌市資料館

札幌市資料館を札幌国際芸術祭2014開催期間中の市民交流、情報発信、アクティビティの拠点として活用します。そのなかで、芸術祭が提唱するテーマや理念をご来場いただいた皆さまや特に次世代へつないでいくために、本施設を「札幌の未来を創造する場」「札幌の未来への入口」として機能させます。新たな出会いと発見をもたらす拠り所として継続的に利用されることを目指します。

また、「エネルギーとアート」や「都市農業とアート」など継続的に考える地域プロジェクト開発事業を行っていきます。

活用 内容

- インフォメーションセンター
- 市民交流サロン
- 情報発信基地となる編集局
(瓦版などの発行予定)
- 芸術祭ドキュメント、アーカイブ展示
- 地域プロジェクト開発事業
(都市農業とアート、エネルギーとアートなどを
テーマとするワークショップ)
- 資料館リノベーションアイデアコンペティション展示
- 札幌コミュニティーシネマ「子ども映画制作プロジェクト」

中谷 芙二子「 FOGSCAPE #47412 」

日 程：2014年7月19日(土)～9月28日(日)

会 場：札幌芸術の森美術館

担 当：飯田 志保子(アソシエイト・キュレーター)

：難波 祐子(プロジェクトマネージャー(学芸担当))

札幌出身のアーティストである中谷芙二子は、1970年の大阪万博ペプシ館のドーム全体を包み込む世界初の人工霧による環境彫刻を手がけました。以来、世界各地の美術館、公園、劇場、公共空間などで霧を使い、環境と呼応する作品を数多く発表しています。

札幌国際芸術祭2014では、札幌芸術の森美術館の中庭を中心に、美術館壁面に出現する人工霧を滝に見立てたこの場所ならではの新作を発表します。中谷の生み出す霧の環境は、美術館の建築や周囲の自然と一体化し、様々な表情を見せながら訪れた人々を変幻する風景の中に誘い込み、それぞれが自らの五感を通して人と自然と都市の関係について思いを馳せる場を創り出すことでしよう。

会期中には、多彩なゲストをお招きして、中谷芙二子の霧をめぐるシンポジウムを開催する予定です。



(参考画像)
中谷芙二子
Fog Sculpture #47636 "風の記憶"
2013年
霧
豊田市美術館での展示風景
撮影：谷川寛

中谷 芙二子(Fujiko Nakaya)／アーティスト

1933年札幌生まれ、東京在住。人工霧によるインスタレーション、パフォーマンス、恒久施設など、その作品数は50に及ぶ。代表作に国営昭和記念公園こどもの森「霧の森」(東京、1992)、横浜トリエンナーレ2008、第18回シドニー・ビエンナーレ(2012)。最新作にパリの共和国広場を人工霧で埋めた「Freedom Fog」(2013)がある。オーストラリア文化賞、第12回文化庁メディア芸術祭功労賞など受賞。

坂本 龍一+YCAM InterLab

「Forest Symphony(フォレスト・シンフォニー) in モエレ沼」

日 程：2014年7月19日(土)～9月28日(日)

会 場：モエレ沼公園 ガラスのピラミッド「HIDAMARI」ほか(予定)

担 当：四方 幸子(アソシエイト・キュレーター(メディア・アート))

樹木から流れる微弱な生体電位をリアルタイムで取得し、それらを一定のルールによって音楽へと変換する坂本龍一+YCAM InterLabによるインスタレーション+ウェブコンテンツ《Forest Symphony(フォレスト・シンフォニー)》を、モエレ沼公園(設計:イサムノグチ)内の中心施設、ガラスのピラミッド「HIDAMARI」において展開します。この作品では、札幌や道内をはじめ国内外から集められた樹木のデータに基づき会場内の音を生成するとともに、アーティスト高谷史郎の監修のもと、生体電位や環境情報が視覚化されます。季節や天候に応じて変化する各地の樹木を「演奏者」として、それらが共につながること森(フォレスト)を形成していくかつてないシンフォニー、その繊細な息吹を室内にしながら感じていただくことができるでしょう。2013年に山口情報芸術センター[YCAM]の開館10周年記念で製作された本作は、SIAF2014とYCAMとの交流企画として、山口以外で初めての展開となるものです。

山口情報芸術センター[YCAM]

アートのスペース、劇場、映画館、図書館、メディアラボを併設する山口市が運営する複合文化施設。2003年開館。コンピュータや通信技術などを使ったメディアテクノロジーを共有プラットフォームとして、メディア・アート、パフォーマンス・アーツ、教育普及事業の制作と公開を主に行う。そのほか、映画上映、サウンドイベント、ワークショップやレクチャーなどを開催している。

<http://www.ycam.jp/>

YCAM InterLab

山口市立山口情報芸術センター内のメディアアーティストの制作を支援する技術チーム。



(参考画像)
坂本龍一+YCAM InterLab
Forest Symphony(フォレスト・シンフォニー)
2013年
写真提供:山口情報芸術センター[YCAM]



(参考画像)
山口市の出雲神社の樹木(撮影:高谷史郎)
写真提供:山口情報芸術センター[YCAM]



モエレ沼公園とガラスのピラミッド「HIDAMARI」

コロガル公園 in さっぽろ

日 程：2014年7月初旬(予定)～9月28日(日)

会 場：札幌市資料館敷地内

作品原案：山口情報芸術センター [YCAM]

不定形で起伏のある木の床面で構成された「コロガル公園」は、スピーカーやマイク、LED照明といった「メディア」を使った様々な仕掛けをもち、それらに触発されながら子どもたちが新しい体の動きや遊びのルールを自ら生み出していける公園型インスタレーションです。2012年に山口情報芸術センター[YCAM]で発表された「コロガル公園」が、山口以外で初公開、初の屋外バージョンとして大通公園の西に位置する札幌市資料館の庭に出現します。都市の中の、木々が点在する緑豊かな自然と共存する空間は、子どもたちに、自然と自分たち、そしてメディアを創造的に結びつけていくユニークな機会を創出することでしょう。さらに、小中学生向けのワークショップ「子どもあそびばミーティング」を複数回開催、追加したい遊びや機能を話し合うことで、期間中にアイデアがコロガル公園に反映されていく予定です。

●コロガル公園(YCAM教育普及展覧会「glitch GROUND」2012年5月19日～8月12日)
<http://glitchground.ycam.jp/about/>

●コロガルパビリオン(YCAM10周年記念祭2013年7月26日～12月1日)
<http://10th.ycam.jp/>



(参考画像)
コロガル公園
2012年
写真提供：山口情報芸術センター[YCAM]



札幌市資料館裏庭

アート×ライフ／ART x LIFE

日 程：2014年7月19日(土)～9月28日(日)

※2014年春よりプレ活動を展開予定

会 場：札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)を含む市内各所

担 当：四方 幸子(アソシエイト・キュレーター(メディア・アート))

情報技術の普及に伴い、物や情報、アイデアの交換が人々の間でますます盛んになる中、私たちの価値観や社会は、消費型から循環型へと移行しつつあるのではないのでしょうか。「アート×ライフ」は、札幌国際芸術祭2014のサブテーマである「自然」「都市」「ライフ」の実践的展開として、アーティストと地域の人々をつなげていくソーシャル・プロジェクトです。具体的には、「シェア(共有)」や「交換」をキーワードに、衣食住をはじめ日常に潜在している資源や才能を掘り起こし活用することで、人や都市、自然をつなげていく活動を目指します。招聘アーティストによるプロジェクト(アート)と市民による自主的な研究会やプロジェクト(ライフ)を並行して展開することで、予想外の展開も含め、相互の対話による創発が生起することでしょう。これらのプロセスは、市内各地での展示やトーク、ワークショップ、そしてウェブで随時公開していきます。「アート×ライフ」は、人々がアイデアやスキルを発動させながら物やサービス、スキルをシェア、交換していく自律的なプラットフォームとして、未来の創造都市・札幌へと向けて発信されます。



(参考画像)
深澤孝史「とくいの銀行 山口」
写真提供：山口情報芸術センター[YCAM]

暮らしかた冒険家

私たちの暮らしはいつだって不安だったのかもしれない。だから進化してきたのかもしれない。今ある社会の問題と向き合って、私たちがこれからどんな暮らしかたが幸せなのか?を模索していきます。今回の作品は【札幌で暮らすこと】。【高品質低空飛行】な暮らしをモットーに「たべもの」「お金」「近所」「インターネット」を見つめ直し、15年後の私たちの暮らしのあり方を冒険します。



暮らしかた冒険家 伊藤 菜衣子・池田 秀紀

(the adventurers for living(仮):Saiko Ito, Hidenori Ikeda)

ウェブデベロッパー 池田秀紀、写真家 伊藤菜衣子による夫婦ユニット。高品質低空飛行生活をモットーに結婚式や新婚旅行、住居などの「これからのあたりまえ」を模索中。100万人のキャンドルナイト、坂本龍一のソーシャルプロジェクトなどのムーブメント作りのためのウェブサイトやメインビジュアルの制作、ソーシャルメディアを使った広告展開などを手がける。

池田 秀紀

1980年 千葉生まれ。神奈川、埼玉、東京と、引越しの多い家庭に育つ。大学在学中に独学でプログラミングを習得。卒業後は広告代理店、田中浩也研究室を経て、2006年よりフリーランスのウェブデベロッパーとして活動中。

伊藤 菜衣子

1983年 札幌生まれ、茅ヶ崎育ち。2004年写真新世紀入賞。デザイン事務所のマネジメント、撮影スタジオアシスタントを経て2006年独立。写真だけに留まらず、ウェブ制作などにも関わる。

「島袋 道浩」プロジェクト

札幌国際芸術祭2014では、美術館、公共空間におけるアーティストによる作品展示、パフォーマンス実施に加え、都心エリア・屋外で、島袋道浩(美術家)の新作を制作、公開を計画しています。島袋は2013年8月に札幌国際芸術祭2014での新作の研究のためゲストディレクター坂本龍一と共に札幌を訪れました。開催期間中に発表される作品は、今後数回にわたる滞在ベースの研究を通じた札幌でのアーティストの体験をもとに制作されます。



撮影：金 玖美

島袋 道浩(Shimabuku) / 美術家

1969年生まれ、ベルリン在住。1990年代初頭より世界中の多くの場所を旅しながら、そこに生きる人々や新しいコミュニケーションのあり方に関するパフォーマンスやインスタレーション作品などを制作。パリのボンビトゥ・センター、ロンドンのヘイワード・ギャラリーなどでのグループ展や2003年ヴェネツィア・ビエンナーレ、2006年サンパウロ・ビエンナーレなどの国際展に多数参加。

<http://www.shimabuku.net/>

芸術祭的視点の旅プロジェクト

日 程：2014年7月19日(土)～9月28日(日)

※プレフェスティバルイベント第3弾「札幌国際芸術祭にもっと関わろう!」の一環として取り組むワークショッププログラムは、2014年1月26日(日)から開始します。

本プロジェクトは、札幌国際芸術祭2014のテーマから抽出する様々な要素をもとに、札幌市内のお勧めルート、札幌を拠点に北海道の各都市へつながる観光ツアーを開発します。

地元アーティストと市民が共同で企画し、様々なツールを通して芸術祭期間中にご来場された方々に体験していただき、芸術祭の理念や、北海道・札幌の魅力をより深く体感していただく機会を創出します。

実際のツアー開発は、札幌国際芸術祭2014プレフェスティバルイベント第3弾「札幌国際芸術祭にもっと関わろう!」の一環として取り組むワークショッププログラムを出発点に、地元アーティストや市民の皆さまとの継続的な取り組みとして展開されます。

事業概要 | 連携事業

札幌国際芸術祭2014開催の機運を高め、主催事業に留まらない広がりのある展開を図るため、色々な団体などが実施する事業との連携を図っていきます。

そのため、連携のあり方によって、特別連携事業、連携事業、同時期開催事業、創造都市さっぽろ推進プログラム事業の枠組みを定め、共通ロゴマークも作成しました。こうした取り組みによって、地域を挙げて札幌国際芸術祭2014を盛り上げ、街全体が芸術祭一色に染まるよう雰囲気を出していきます。

●特別連携事業

札幌国際芸術祭2014のテーマ&メッセージとの親和性が高く、企画や広報で相互に協力を行うことが可能な事業

・対象期間：2013年11月4日(月)～2014年9月28日(日)



●連携事業

札幌国際芸術祭2014のテーマ&メッセージとの親和性があり、企画や広報で連携を図ることが可能な事業

・対象期間：2013年11月4日(月)～2014年9月28日(日)



●同時期開催事業

札幌国際芸術祭2014の開催期間中に、共に札幌を盛り上げるため、文化芸術団体などが市内で開催する事業

・対象期間：2014年7月19日(土)～9月28日(日)



●創造都市さっぽろ推進プログラム事業

札幌市が主催又は関連する事業で、札幌国際芸術祭2014の開催目的に賛同し、アート又は創造性の視点を取り入れた事業

・対象期間：2013年11月4日(月)～2014年9月28日(日)



札幌国際芸術祭2014全体としての取り組み

環境負荷低減の取り組み

札幌国際芸術祭2014は、都市と自然の共生を目指して環境に関わる活動を行います。

開催によって排出されるCO₂・ゴミを抑制し、それでも排出されてしまったCO₂の一部は、北海道産のオフセットクレジットなどによって相殺し、北海道の森林保全と地球温暖化対策としてのCO₂削減を世界中に発信、推進していきます。(環境省のカーボンオフセット認証ラベル取得を目指しています。)

その他、環境意識の向上のための啓発を行い、市民と共に環境について考え行動するためのきっかけになることを目指します。

ボランティアスタッフの募集と育成

札幌国際芸術祭2014の様々な運営業務をお手伝いいただけるボランティアスタッフを募集します。本開催までに数回の説明会、ミーティング、研修会を行うほか、実際にワークショップの運営をお手伝いいただくなど、育成プログラムも順次展開していきます。

・登録期間:2013年11月4日(月)~2014年5月15日(木)

・登録方法

札幌市コールセンターへTEL、FAX、E-mailのいずれかでお申し込みください。

TEL:011-222-4894 / FAX:011-221-4894 / E-mail:info4894@city.sapporo.jp

※ 正確な情報をご登録いただくために、FAX又はE-mailでのお申し込みにご協力ください。

※ 札幌市コールセンター

【日本語、英語対応の開設時間】 年中無休 8:00~21:00

【中国語、韓国語対応の開設時間】 年中無休 9:00~17:00

国際芸術祭交流施設(仮称)の活用

本開催までに滞在制作型のスタジオを持つ施設として国際芸術祭交流施設(仮称)を開設し、札幌国際芸術祭2014に携わるアーティストやボランティアスタッフなどの滞在施設として活用していきます。

・場所:国際芸術祭交流施設(仮称)札幌市豊平区平岸2条17丁目1-80天神山緑地内

ミュージアム及び地域間ネットワーク

札幌国際芸術祭2014の開催テーマやサブテーマと親和性がある北海道内の施設・地域・場所をガイドブックなどで紹介します。日本の近代化におけるエネルギーの歴史を知ることが出来る施設や地域、自然を体感できる施設や地域などをピックアップして紹介し、皆さまが現地へ赴き体感していただくことで、芸術祭の開催テーマをより多角的に感じていただくことを目的としています。

その他

札幌市の姉妹都市である韓国 大田市との交流により、アーティストを招聘する予定です。

主な会場



北海道立近代美術館

1977年7月開館。北海道の地域性と国際性を視座に、コレクションの充実、ユニークで多彩な展覧会の開催、様々な教育・情報サービスを積極的に進めています。地域に開かれ、また地域の美術文化を拓くことを基本理念に、北海道における文化拠点として、さらなる進展を目指します。



住 所：札幌市中央区北1条西17丁目

開館時間：9:30～17:00

休 館 日：毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日のときは開館、翌火曜日休館。展示替え期間など)

U R L： <http://www.aurora-net.or.jp/art/dokinbi/>

札幌芸術の森美術館

札幌芸術の森美術館は、1990年9月、北海道札幌市南部の緑豊かな丘陵地に位置する複合文化施設・札幌芸術の森に開館しました。

札幌、北海道ゆかりの作家の作品及び国内外の近現代美術などを収集の核としつつ、多彩な内容の特別展を年間5～7本開催すると共に、美術に関する調査研究活動を行っています。また、74点の彫刻作品を常設展示する野外美術館、及び制作のできる佐藤忠良記念子どもアトリエを併設します。さらに、園内の豊かな自然環境や周辺の教育・研究機関などとのつながりを活かした連携事業を通して、市民に生涯学習の場を提供しています。

創造都市・札幌の美術文化振興の中心的役割を担う美術館として、心豊かな街づくりに貢献することを目指します。



住 所：札幌市南区芸術の森2丁目75

開館時間：9:45～17:00

休 館 日：4月29日～11月3日は無休(11月4日～4月28日は月曜日休館。但し、月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

U R L： <http://sapporo-art-museum.jp>

札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)

2011年3月開通。1年の半分を雪が覆う札幌の都心を、四季を通じて安全・快適に歩くことができるようになり、さらに、札幌駅周辺地区と大通・すすきの地区が地下でつながることで、より気軽に都心全体のまち巡りを楽しむことが出来るようになりました。

広場(交差点広場、憩いの空間)は、パフォーマンスや音楽などのイベント、アート作品展示、情報発信などの催しはもちろんのこと、販促や商品PRなどの商業プロモーションを実施するなど、様々な賑わいを生み出しています。



区 間：札幌市営地下鉄南北線さっぽろ駅から大通駅 幅 員：20m(歩行空間12m + 憩いの空間4m×2)
延 長：約520m(うち国道区間は約160m) U R L：http://www.sapporo-chikamichi.jp/

札幌大通地下ギャラリー500m美術館

札幌市の地域特性のひとつである地下空間を地元アーティストの発表の場として活用し、札幌の文化芸術を内外に発信すると共に、国内外の作家の作品を展示し、市民が様々な芸術作品に触れる機会を創出することを目的に、2011年11月に常設化しました。

駅施設内のものとしては日本最長のギャラリーであり、500m美術館と札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)からなる地下空間ネットワークで「2012年度グッドデザイン賞」(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しております。



撮影：YOSHISATO KOMAKI

住 所：札幌市中央区大通西1丁目～大通東2丁目 休館日：無休
(地下鉄大通駅とバスセンター前駅を結ぶ地下コンコース(地下2階相当)内) U R L：http://500m.jp/
開館時間：7:30～22:00(照明点灯時間)

モエレ沼公園

2005年7月開園。彫刻家イサム・ノグチが計画に参画し、「公園をひとつの彫刻」とするダイナミックな構想により造成が進められた「札幌市環状グリーンベルト」構想の北部系緑地の核となる都市公園です。

5月には「サクラの森」のサクラが咲き、6月から9月にかけてはモエレビーチが開放されます。その他の施設として、イサム・ノグチがデザインした120基以上の遊具のある7ヶ所の遊具エリアや、石狩平野を囲む山脈を一望できる、高さ50mのモエレ山や30mのプレイマウンテンがあります。スポーツ施設としては、15面のテニスコートに野球場、陸上競技場があります。イベント施設では、野外ステージやミュージックシェルなどがあります。冬はクロスカントリースキーやスノーボードにソリ遊びが中心となり、一年を通して遊びを提供します。



住 所：札幌市東区モエレ沼公園1-1 休園日：無休(但し、各施設はそれぞれ休業日あり)
入口開放時間：7:00～22:00(入場ゲートは21時まで) U R L：http://www.sapporo-park.or.jp/moere/
(東入口ゲート)

札幌市資料館

1926年に札幌控訴院(のちの札幌高等裁判所)として建てられた建物で、1973年3月の裁判所の移転に伴い、同年11月に札幌市の財産となり、札幌市資料館として開館しました。

札幌軟石を使った建物として全国的に貴重なものであり、1997年5月には国の登録有形文化財に選定されました。以来、札幌の歴史を紹介する施設として広く親しまれています。



住 所：札幌市中央区大通西13丁目

開館時間：9:00～19:00

休 館 日：毎週月曜日(月曜日が祝日に当たるときは、翌日が休館日)と年末年始(12月29日～翌1月3日)

U R L： <http://www.s-shiryokan.jp/>

北海道庁赤れんが庁舎

1888年完成。四季折々に赤く映え、美しい姿を見せている北海道庁旧庁舎は「赤れんが」の愛称で広く親しまれています。この設計は平井晴二郎を主任とした道庁の技師が担当し、アメリカ風ネオ・バロック様式のれんが造りで、れんが、硬石、木材など多くは、北海道産の資材が使用されています。以来、新庁舎完成までの80年にわたり、北海道の拠点、道の中核としての役割を果たしてきました。

今日、これほど優れた明治時代の洋風建築物は国内でも少なく、1969年、国から重要文化財の指定を受けました。



住 所：札幌市中央区北3条西6丁目

開館時間：8:45～18:00

休 館 日：年末年始(12月29日～翌1月3日)

U R L： <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/sum/sk/akarenga.htm>

札幌市教育文化会館

1977年7月開館。札幌市における芸術文化活動の振興に資するため、設置されました。

大・小2つの多目的ホールに加え、全9タイプの研修室や、合唱・踊り・演劇などの練習室、ギャラリーの貸し出しを行っています。

札幌市営地下鉄西11丁目駅から徒歩5分という立地の良さから、様々なイベントに、市民の皆さまをはじめ、道外からも数多くのお客様に施設をご利用いただいております。



住 所：札幌市中央区北1条西13丁目

開館時間：8:45～21:00

休 館 日：毎月の第2月曜日及び第4月曜日(月曜日が国民の祝日に当たるときは、月曜日後最初に到来する休日以外の日)と年末年始(12月29日～翌1月3日)

U R L： <http://www.kyobun.org/>

さっぽろ芸術文化の館 ニトリ文化ホール

1971年開館。北海道最大規模の客席数2,300席を誇る「さっぽろ芸術文化の館(ニトリ文化ホール)」は、本格的なオペラやバレエなどの質の高い舞台芸術や全国を回るツアーコンサートなどのライブエンターテインメントをはじめ、学会や全国大会、入学式・卒業式などの記念行事まで、非常に幅広い催しが行われ、毎年約40万人が訪れる施設です。

北海道厚生年金会館時代に売却されることが明らかになった際、ホールの存続を願う会が発足し、チャリティコンサートや募金活動が展開されるなど、アーティストや地元住民に愛され、文化芸術の拠点として、札幌市はもとより、北海道全体の文化芸術振興を40年以上支えています。



住 所：札幌市中央区北1条西12丁目

開館時間：9:00～21:00

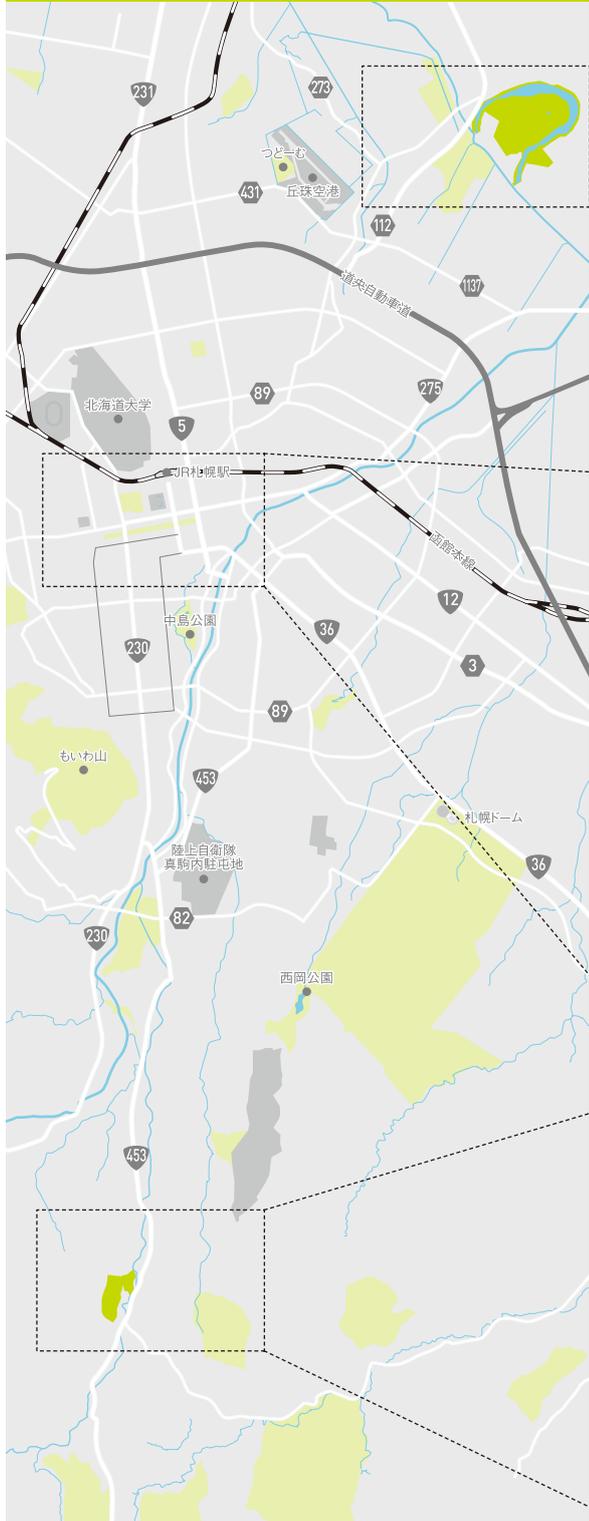
休 館 日：無休

U R L： <http://www.sapporo-geibun.jp/hall.html>

MAP



広域MAP



モエレ沼エリア



札幌市街地エリア



札幌芸術の森エリア



企画体制



ゲストディレクター	坂本 龍一
企画アドバイザー	浅田 彰 (京都造形芸術大学大学院学術研究センター所長)
アソシエイト・キュレーター	飯田 志保子 (インディペンデント・キュレーター)
アソシエイト・キュレーター(メディア・アート)	四方 幸子 (メディアアート・キュレーター)
地域ディレクター	端 聡 (美術家/アートディレクター)
チーフプロジェクトマネージャー	小田井 真美 (AIRプロデューサー/アートディレクター)
プロジェクトマネージャー	漆 崇博 (AISプランニング代表/アートコーディネーター)
プロジェクトマネージャー	カジタ シノブ (インディペンデント・プロデューサー)
プロジェクトマネージャー(学芸担当)	難波 祐子 (キュレーター)
プロジェクトマネージャー	小川 智彦 (ランドスケープ・アーティスト)
プロジェクトマネージャー(メディア・アート担当)	細川 麻沙美 (コーディネーター)
プロジェクトマネージャー(サウンド担当)	須之内 元洋 (札幌市立大学助教)
ゼネラルプロデューサー	武邑 光裕

実行委員会



会 長	上田 文雄	〈札幌市 札幌市長〉
副 会 長	高向 巖	〈札幌商工会議所 会頭〉
副 会 長	武邑 光裕	〈札幌市立大学 デザイン学部教授/札幌メディアアーツ・ラボ(SMAL)所長〉
副 会 長	奥岡 茂雄	〈美術評論家〉
委 員	横内 龍三	〈(株)北洋銀行 取締役会長〉
委 員	堰八 義博	〈(株)北海道銀行 代表取締役頭取〉
委 員	村田 正敏	〈(株)北海道新聞社 代表取締役社長〉
委 員	星野 尚夫	〈(一社)札幌観光協会 会長〉
委員(監事)	福井 知克	〈(財)さっぽろ産業振興財団 専務理事〉
委 員	橋本 道政	〈(財)札幌市芸術文化財団 副理事長〉
委 員	増井 一実	〈朝日新聞社北海道支社 支社長〉
委 員	齊藤 善也	〈毎日新聞社北海道支社 支社長〉
委 員	中川 俊哉	〈読売新聞東京本社北海道支社 執行役員/支社長〉
委 員	篠原 昇司	〈日本経済新聞社札幌支社 支社長〉
委 員	川野 芳水	〈日本放送協会札幌放送局(NHK) 局長〉
委 員	渡辺 卓	〈北海道放送(HBC) 代表取締役社長〉
委 員	島田 洋一	〈札幌テレビ放送(STV) 代表取締役社長〉
委 員	樋泉 実	〈北海道テレビ放送(HTB) 代表取締役社長〉
委 員	須賀 信昭	〈北海道文化放送(UHB) 代表取締役社長〉
委 員	関口 尚之	〈テレビ北海道(TVH) 代表取締役社長〉
委 員	柴田 正良	〈(株)STVラジオ 代表取締役社長〉
委 員	宇佐美 暢子	〈(株)エフエム北海道 代表取締役社長〉
委 員	柴野 伸幸	〈(株)エフエム・ノースウェーブ 代表取締役社長〉
委 員	渡邊 光春	〈札幌市 市長政策室長〉
委 員	可児 敏章	〈札幌市 観光文化局長〉
アドバイザー	阿部 典英	〈北海道文化団体協議会 会長〉
アドバイザー	水田 順子	〈道立近代美術館 学芸副館長〉
アドバイザー	天野 太郎	〈横浜美術館 主席学芸員〉
アドバイザー	北村 清彦	〈北海道大学文学研究科 博士/教授〉
アドバイザー	佐藤 友哉	〈札幌芸術の森美術館 館長〉

※広報用画像をご用意しております。

ご使用を希望される場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

●お問い合わせ先

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 国際芸術祭事務局

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市観光文化局国際芸術祭担当部内

Tel : 011-211-2314 / Fax : 011-218-5154

Mail: press@siaf.jp